

## こどもの日にちなんで



N.T.

今年から五月五日のこどもの日が「世界こどもの日」になる。「世界こどもの日」は一九五四年一月一日、国際連合第九総会第五一四会議で「全世界の国々が、一九五六年から各国で適当な日と方法で世界子供の日の実施する」という決議を行ったことに基き、今年からわが国では、かねて守られていたこどもの日を世界こどもの日と制定することになったのである。

世界こどもの日は全世界にこれが実施されることによって、子供の中に芽生える子供の友愛と理解により人類の団結と国家の協力に

## 副島ハマ

寄与しようということ  
を目的として行われる  
ものであるが、こうし  
た世界的な動きと関連  
してこどもの日の守り  
方について書いて見  
たい。

今年も又こどもの日  
がやってくる。この頃  
では女学生の「〇〇に

御協力下さい」の黄色い声と共に行われる街頭募金は、道行く人々に「ああ又か」という感じを呼び起す程度かと思うが、こどもの

日の前身の児童愛護デーが始まった頃、(当時私は学生であつたが)当日(五月五日端午の節句の日)八重桜の造花(幾ら頭をひねっても桜のような気がする。カーネーションが間に合わなかったのか、私にカーネーションの知識がなかったかの何れかだろう。何でもそれにつながったリボンに児童愛護デーと紫色のスタンプがおしてあった)を売った頃は往來の人も珍らしがって足を留めじろじろ眺

めるし、こちらも花恥ずかしくて、うら若い頬を染めたもので、漸くの思いで籠の中に盛った割当の花をさばいて学校に帰ると、「てれ臭くて——」などと云って一つも売らなかつた友だちがあつたり、大抵は長くて一時間位で引揚げていたのであつた。

今思えばあの日の街角の花売りは大海の一滴にも該当しなかつたし、大先輩の諸先生方の御計画のほんの一端に参加させていただいただけで、児童愛護運動の雰囲気を感じたのであるが、あの頃の児童に対する考え方と、こどもの日が国の行事となつたこの頃のそれと思ひ合せると、全く感慨無量である。

御存じのように「国民の祝日」は昭和二三年七月二〇日法律第七十八号をもって公布されたが、これは終戦後の民主化の流れの中で国としての祝日が問題になり、国会で取り上げられ、委員会で審議が続けられる一方、各種文化団体、新聞社などまでが協力して、与論調査など行い、その結果求められたもので、あの時「こどもの日」が入れられたことは民衆の声として大いに意義があると思われ。と云うのは、昔の祝祭日は、紀元節、天

長節、明治節、春秋季皇靈祭など、国や皇室につながるものが多く、そういう祝祭日を送り迎えていた古い大人たちの新しい与論なのであるから、「こどもの日」の制定は画期的な出来ごとであつたと思われるし、保育を一生の仕事としている私たちには真に有難いことでもあつた。

しかし、考えてみると、国の祝祭日ではないが、わが国の伝統ある民族的な行事の中には、子供につながりのあるものが多く、大人の行事でも子供の遊びにつながるものが多い。例えば雛祭り、端午の節句、七五三などは、純粹に子供の祝福を願う行事、云いかえると今の「こどもの日」と同じであるし、節分、七夕、月見などは「子供の遊びの日」とも云えるのではなからうか。

大和民族の血の中には、こうした子供を愛する血が本来流れていて、その血、この民族性が「こどもの日」を制定したのだと思われなければならない。そう思うと、私は無上に嬉しくなるのであるが、その子供を愛する心の表現方法に考えが及ぶといささか暗い感じがしないでもない。具体的に云うと、行事が純粹な

郷土的なものとして守られている間はよいが例えば雛祭りの雛人形や、端午の節句の鯉のぼり、七五三の衣裳などに無鉄砲な金銭をかけて、本質的なものが忘れられていないだろうかということである。

女の子の成長を祝い、情緒を養うための雛祭り、男の子の成長を祝い、勇気と元氣のある子にと願う端午の節句、七才五才三才になるまでの成長の喜びを感謝する七五三の祝などは、果して雛人形や鯉のぼりや振袖衣裳の買える子供だけに必要なであろうか、そういうものの買って貰えない環境の子供にこそ行事の精神で愛撫される必要があるのではなからうか。

さてこれらの民族行事が、昔の「こどもの日」に該当するという考えから、いささか行事論が長くなったが、これは判定後未だ七回目を迎えるようとする「こどもの日」の守り方について話したかったからで、その守り方には早問題があるのではないかと思う。というのは、この頃こどもの日が一方では「こどもの日大会」などというお祭りになり、又一方社会の下積みになって愛せられざる子供ら

のためには全然無関係無関心な日として過ぎて行くのではないかと思うからである。

それではこのこどもの日をどう過すべきであるか、こどもの日の守り方に一定の方法が決まっているだろうか。いえ、他の行事や祝祭日のように、人形や鯉のぼりを飾るとか、式があるとかという決りはない。ないことが又実によいと、私は思う。形式が完全にどつて中味がないより、こどもを守るべき人たちがこどもの日の守り方を色々と考えていることが内的に深く掘りさげることになると思うから――。

「こどもの日」は「国民の祝日」の法律では、「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかると共に、母に感謝する」となっている。

こどもの日の行事は、果して子供の人格が重んぜられていだろうか。切角の行事が、子供の人格を無視して、子供の能力以上に強いられた遊戯や劇を大人が見て楽しんでいことはなからうか。

こどもの日は真にこどもの幸福のためにと行われているだろうか。こどもを楽しませる

ための大会が、こどもにとつては騒音と強度な刺戟のために疲労するだけの結果を来たすのではなからうか。

こどもの日に子供が母に感謝する程、母親がしみじみ子供に愛情をそそいでいるだろうか。又周囲の人は母親をそういう環境において上げているだろうか。「お母さん有難う」と感じる(口で云わなくても)位母親は子供のことを考え尽してやる事が、こどもの日の守り方だと思ふが、果してそういうことを反省している母親や保母や教師が幾人あるだろうか。

こどもの日は、子供のためにあるのであつて、こどもの日の啓蒙宣伝に使われるためにあるのではない。云いかえると、こどもの日の行事のためにこどもがだしに使われてはならないのである。そうすれば雛人形を飾るための雛節句、鯉のぼりを立てるための端午節句、高価な衣裳を着るための七五三を祝うことと何等愛りなくなつてくる。

私は幼稚園や保育所の保育計画の行事欄に「こどもの日」を見ると、何だか胸が寒くなります。そして日本中の子供に代つてお願い

したいのです。「何卒愛するこどもの内的生命力を尊ぶこどもの日を守つて下さい」と。大和民族はもつと高尚な精神的なことを愛する民族である筈です。表面的なお祭りでなくこどもの人格が重んぜられているか、こどもの幸福が計られているか、こどもに感謝される母親、保母、教師として資格があるかなど日常の保育への反省の日でありたいと願うものであります。今年のこどもの日は、日本中津々浦々のはてはてのこどもの幸福をもたらすよき日であれかしと祈りつつ。

(厚生省保育課)

× × ×

▽誤正△本誌五十四卷第三号(三月号)中、四六頁下段三行目「平安学院短期大学」は平安学院短期大学の誤りで、住所も、「東京都市上京区室町下立売下る西側」が正しいので訂正いたします。

### ☆幼児教育界におくる

倉橋惣三先生の二著

### 幼稚園真諦

B六判一四六頁 定価一八〇円

### 子供讃歌

B六判二三四頁 定価二六〇円

倉橋惣三先生が、永年に亘り考究された幼児保育の真のあり方を、体験によるうらづけと、先生の美しい心のままに、平明に描かれた書で、幼児教育にたずさわる先生方が、必ず一度はお読みになつて、ほんとうの意味の幼稚園の理解と、倉橋先生のりっぱな児童観を、会得していただきたいと思ひます。

株式会社 フレーベル館